

2017年5月8日付 商経アドバイスより

# 検査数量24万トんに膨張

## もち米相場下落進み 加工米価格に急接近

**業者間取引1万円割れ**  
 もち米の過剰感に拍車がかかり、市場相場の低迷が深刻化している。業者間取引では玄米60キ当たり1万円を割り込む事例も散見され、手持ちする産地業者のいらだちは強い。全農が29年産の生産抑制策を示唆しているものの、相場下落に歯止めをかける特効薬とはならず、新米切替えまでこのまま下げ続けるとみられる。

もち米過剰感の台頭は、検査実績からみても取れる。農水省が先ごろ公表した28年産水稻もち米の3月末現在検査数量は全国合計で23万8939ト、前年対比では1%、26年産同期比では12.9%増となっている。

生産者通信

NPO法人  
米ニケーションセンター  
定価 100円(送料込)

5%と急伸びしており、加工用もち米の急激な増加もあって検査数量は膨れ上がっている。

もち米取引は、全農・全集連の主食用、急激に生産量が伸びている加工用、市場出回りに玉に大別され、全農の主食用は今年10月末に5万1000トが持ち越される見通し。全農の持越在庫3万トが適正とされ、全農分だけでも2万ト以上の過剰となる。

もち米取扱業者によると、「最近の傾向として、もち米は加工用以外いらぬ」というメーカーが増えてきている」とされる。加工用米地域流通契約分が主流になりつつあることから、高値の取引は見向きもしないという。28年産のように過剰感が強い年は、高値玉が行き場を失う構図が鮮明になるようだ。

### 精米所改装のため

特別価格  
で!

お譲りします!

興味のある方はエコ・ライスまでご連絡ください。  
価格は応相談です。

1 胚芽精米機



2 精米機(10馬力)



3 集じん機(マキタ)



4 昇降機



5 色彩選別機



6 石抜機



7 横コンベア

